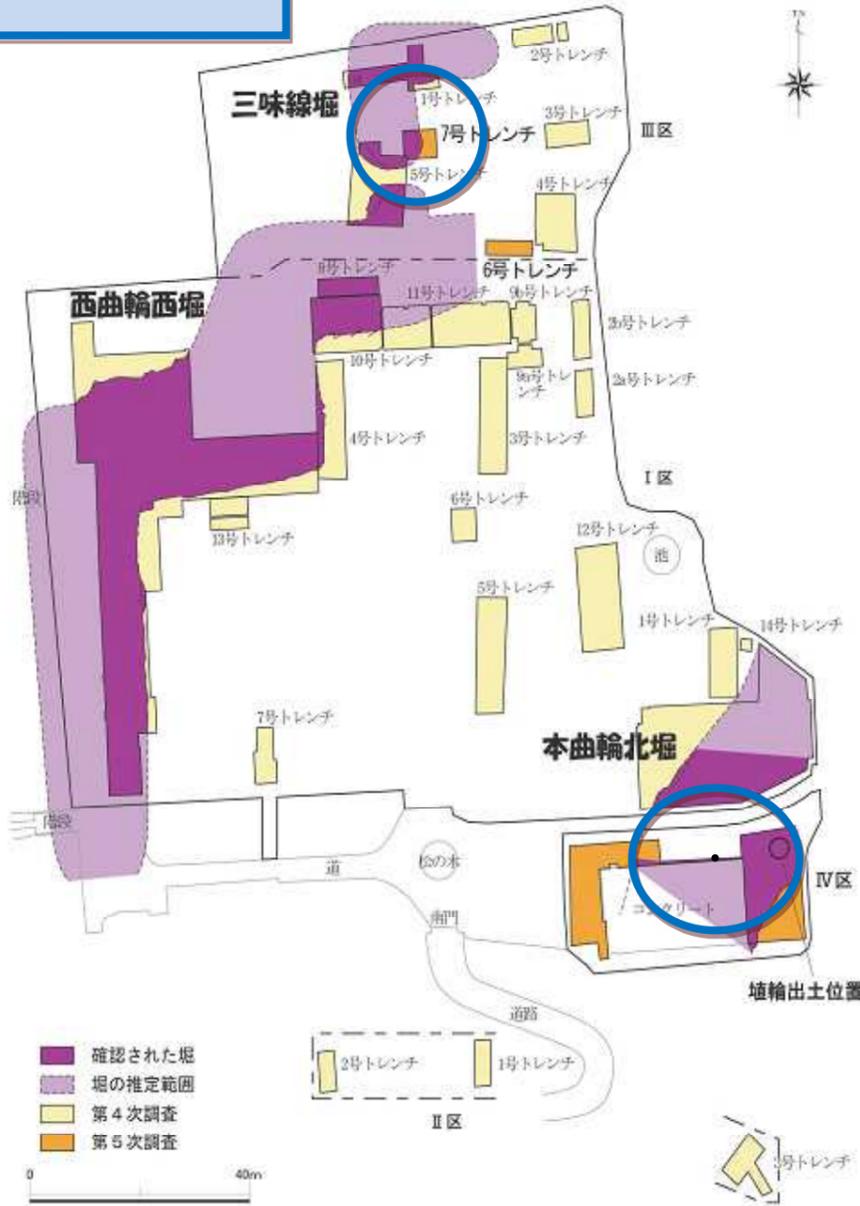


調査区位置図



本曲輪北堀



本曲輪北堀は八幡山古郭の中心である本曲輪を巡る堀です。昨年度調査では堀の西肩を確認し、今年度は東肩と西肩の延長部を確認しています。調査の結果、堀の幅は27mを超える巨大な堀だったことが分かりました。また、出土遺物は中世のかわらけ（素焼きの土器）や国産陶器（瀬戸・美濃焼）が少量出土しています。

三味線堀

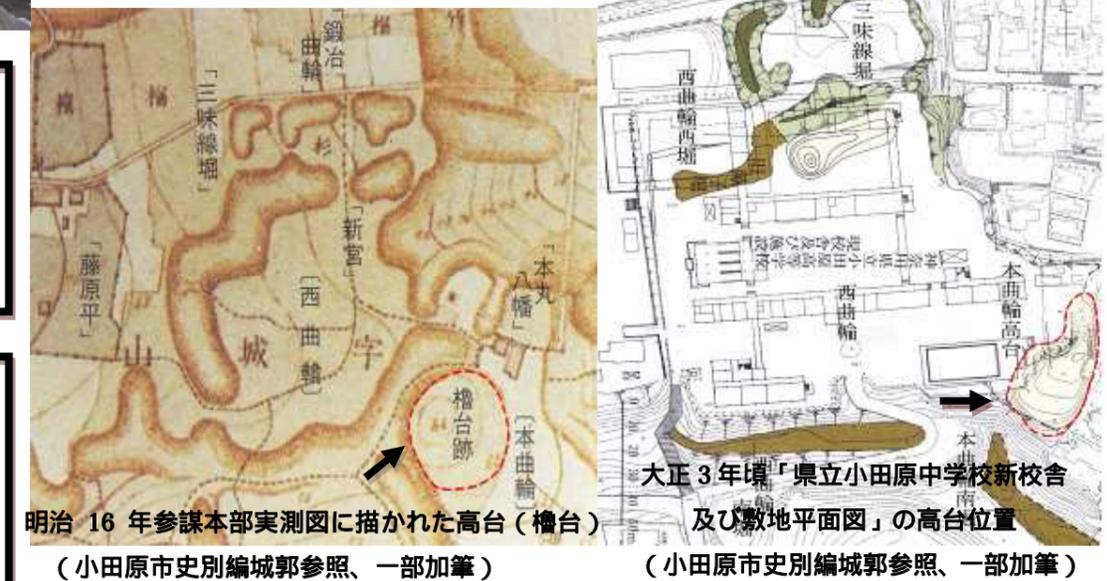


三味線堀中堀の南屈曲部より延長する部分を検出しました。調査から三味線堀の幅は約11mあることが分かりました。調査区南側ではやや西側に弧を描く形をしています。
中近世の遺物は瀬戸・美濃焼の小皿片などが出土しましたが、全体的には少量です。

埴輪



〔小田原城跡八幡山遺構群（第5次調査）の調査成果〕
調査区は昨年度に引き続き、伝承地名「西曲輪」に相当します。三味線堀中堀（幅10～11m）と本曲輪北堀（幅27～28m）の延長部分が見つかりました。特に本曲輪北堀の幅は昨年調査した西曲輪西堀よりも広く巨大な堀だったことが確認できました。
中近世の遺物はかわらけ（素焼きの土器）や瀬戸・美濃焼、常滑焼といった国産陶器などが堀から出土していますが、ごくわずかの出土に留まっています。本曲輪北堀の堀覆土から埴輪（壺型埴輪、4世紀後半～末）が出土したことは、周囲に古墳の存在があったことを伺わせます。本曲輪北堀背後の、これまで檜台とされてきた「高台」と呼ばれる高まりが、古墳であった可能性があります。埴輪については小田原市内でも初の出土となり、市域の古墳時代を考える上で貴重な遺物と言えます。



埴輪は 区東側、本曲輪北堀の覆土中から出土しました。小田原市内ではこれまで埴輪は見つかっておらず、これが初の事例となります。埴輪の種類は壺形埴輪と考えられ、口縁部付近の破片を確認しています。時代はおおよそ古墳時代前期後半頃（4世紀中頃から後半）と考えられることから神奈川県内でも古手の埴輪と言えそうです。
八幡山丘陵周辺では同時代の集落は見つっていますが古墳自体はわかっていませんでした。本曲輪北堀の背後には本曲輪「高台」と呼ばれる小高いマウンドが存在します。壺形埴輪の出土からこの「高台」が前期古墳であった可能性ができました。

小田原城跡八幡山遺構群（第5次調査）調査概要

遺跡名	小田原城跡八幡山遺構群 (小田原市 77遺跡)
時代	近代・中近世・弥生～古墳・縄文
調査期間	2009年6月1日～7月15日
発見遺構	(2009年7月現在)
近代	石組水路
中近世	本曲輪北堀・三味線堀・石組遺構
出土遺物	
中近世	かわらけ・陶磁器類
弥生～古墳	土師器・埴輪
縄文	縄文土器・石器